

「新型コロナウイルス感染症対策調査特別委員会」の調査結果を報告しました

本委員会(常井洋治委員長)は、「ウィズコロナ・ポストコロナを見据えた県の活性化に向けた諸方策の在り方」について調査・検討を重ね、定例会最終日に調査結果を報告しました。

(調査期間：令和4年3月24日～11月16日)

【主な提言内容】

1 社会経済活動の対応

- 「いば旅あんしん割」のような観光施策を推進するに当たっては、ダメージの大きい交通事業者を支援する観点から戦略を立てる必要がある。
- 水際対策の緩和に伴い、本県が「外国人労働者を選ばれる県」となるため、言語の問題や感染症対策など不安を払拭する対策が必要である。
- 飲食業者に対しては、新たなビジネスモデルに沿った業態への転換も選択肢の一つとなるよう、積極的に支援していくべきである。

2 教育現場の対応

- コロナ禍で不登校などが顕著にある中、これまで以上に目配り、気配りを心掛け、子どもたちのメンタル面をサポートしていく必要がある。
- 不登校などの問題を解決するためには、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、外部人材のさらなる活用が必要である。
- 教員が効果的な感染対策について真剣に考えるための取り組みや、学校と地域が一丸となり子どもたちの命と健康を守るための取り組みが必要である。

3 県民の命と健康、安全安心な暮らしを守る医療・福祉・警察等の対応

- 県民に行動制限などを求めるベースとなる以上、県独自の対策指針や判断指標については、県民が理解しやすく、信頼されるものでなければならぬ。
- 感染拡大防止につなげるためには、知事の記者会見などにおける専門家の同席なども含め、専門家の意見が県民に伝わるようにする視点が重要である。
- 知事はじめ県執行部は、「県議会災害対策会議」などの協議の場を通じて、県民の代表である県議会の声にしつかりと耳を傾ける必要がある。
- 抗原検査キットの活用が見直される中、配布した検査キットの在庫情報や流通状況について、広く共有するための仕組みを構築する必要がある。
- コロナ禍での困窮世帯に対して必要な支援が届けられるよう、行政側からの積極的なアプローチによる支援をさらに推進する必要がある。
- 警察の留置施設内における感染防止対策については特に徹底するとともに、警察としての業務継続に向けた取り組みを進める必要がある。

【主な総括】

○県民に改めて基本的な感染予防対策を呼び掛ける視点を大前提にしながらも、「感染抑制と社会経済活動の両立」を基本とする従来の姿勢については、ウィズコロナにおいて保健医療提供体制の再点検・充実強化を図りつつ、徐々に社会経済の活性化へと軸足を移していく必要がある。そこそが、ポストコロナにおける本県のさらなる発展に向けて、正鵠を射た新たな方向性へつながっていく。

※報告書の全文は議会ホームページで閲覧いただけます。
<https://www.pref.ibaraki.jp/gikai/report/covid-19/07houkokusho.pdf>



調査結果の報告を行う常井洋治委員長

「G7関係閣僚会合誘致推進協議会」を開催しました

第4回G7関係閣僚会合誘致推進協議会(海野透会長)が11月11日に開催され、各委員および伊沢勝徳議長が出席しました。会議では、G7茨城水戸内務・安全担当大臣会合の開催決定を受けて、会合の主官庁である警察庁への要請活動の結果を報告するとともに、執行部から、開催に向けての今後の取り組みなどについて説明聴取を行いました。

その後、これまでの協議会で委員から出された意見などを取りまとめた提言案を審議・決定し、執行部へ提言書として手渡しました。G7関係閣僚会合の誘致を目的に設置された協議会の活動は、今回で終了となることから、閉会に当たり海野透会長より、「県民に国際会議の開催を有意義に感じてもらうための開催機運の醸成や、各国閣僚などの参加者に対する心のこもったおもてなしの提供など、執行部においては協議会からの提言の趣旨を汲み、水戸市と連携の上、万全の体制で準備を進めていただきたい」との挨拶が述べられました。



執行部へ提言書を手渡す海野透会長(中央)と中村修副会長(右側)

常磐大学で「出前委員会」を開催しました

県議会では、開かれた議会を目指し、県議会議事堂以外の場所でも、県議会の活動を身近に感じていただくため、常磐大学において保健福祉医療委員会(川口政弥委員長)の出前委員会を開催しました。

【開催結果】

- 日時 10月13日(木)午後1時
- 場所 常磐大学見和キャンパス
- テーマ 医療・福祉分野における人材確保等対策
- 医療・福祉人材の確保対策等
- 在宅医療・訪問看護の拡充策
- 福祉分野におけるアウトリーチ体制の確立に向けた方策
- 県立病院における医療人材の教育・研修機能の強化



常磐大学における出前委員会の様子

「情報委員会」をオンラインで開催しました

10月21日、情報委員会(鈴木将委員長)において、緊急時のオンライン開催に備え、機器などの習熟のため、試行的にオンラインによる審議などを行いました。



オンラインによる開催の様子



県議会議員 岡田拓也氏 逝去

岡田拓也氏は、去る11月21日に逝去されました。45歳。岡田氏は、平成26年の県議会議員選挙(高萩市選挙区)で当選され、以来3期、県議会議員の職にありました。その間、防災環境産業、文教警察、保健福祉医療委員会の委員長などを歴任されました。ご冥福をお祈りいたします。